

令和4年度 日野市立七生中学校経営重点計画				自己評価シート				令和5年3月公表							
★学校教育目標								★重点計画の概要							
○自ら学び考え行動しよう ○責任と思いやりの心をもとう ○健全な心と体をつくろう								全ての生徒が「明日も学校に行きたい」と思えるために、 ・生命尊重、人権教育、いじめの根絶、体力向上に取り組む ・生徒にとって安心、安全な学校づくりを推進する。 ・「分かる授業」づくりを進め、確かな学力の育成と主体的な学びを育む。 ・ひとりひとりの生徒に合った特別支援教育の一層の充実を図る。 ・地域と学校が双方向で連携を深める。							
★目指す学校像（ビジョン）															
【めざす児童・生徒像】															
【めざす学校像】															
【めざす教師像】								①生徒理解に優れ、人権尊重の精神に基づいた教育活動を実践できる教職員 ②教育の専門家として、確かな指導力をもつ教職員 ③チームワークを大切にし、社会人として常識のある教職員							
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策						
				評価点	取組指標		評価点			成果指標					
学び	確かな学力と主体的に学ぶ力の向上及び多様な学びへの対応	・新学習指導要領をふまえた「主体的な学習活動を中心とした授業づくり」の推進 ・学び合いを通して、主体的に学習に取り組む態度の育成 ・学習者用端末を活用した主体的な学習活動の推進	・校内研究を充実させ、主体的な学習活動を取り入れた授業改善を推進する。 ・適正な学習評価による指導と評価の一体化の推進を図る。 ・学び合いや対話を取り入れた学習形態による主体性の育成を図る。 ・学習者用端末を活用した主体的な学習活動を展開し、事例の共有を行う。	4	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	4	4	生徒のアンケートで、90％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した	・生徒が落ち着いて学習に取り組めるように、指導が行き届いている。 ・教員がICT機器を積極的に使うことは大切である。 ・SNSの利用で手軽に連絡を取り合える社会だが、コミュニケーション能力も大切です。SNSとコミュニケーションを調整できる力を学校で身に付けさせてほしい。	生徒アンケートでは90％以上の生徒が授業の内容に満足していると回答している。このことは生徒が落ち着いて学習に取り組めていることにつながっていると思われる。来年度は学習環境を整えると共に更に学力を向上させるように取り組んでいきたい。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「授業全体をとおして、内容や進め方について満足している」と回答した生徒が70％未満						
いのち	人権尊重の視点に立った教育活動の推進	・お互いを認め合い、尊重し合う学校風土の形成 ・いじめの未然防止と早期発見、早期対応 ・情報モラル教育の充実	・人権教育を推進し、お互いを尊重し合い、安心して学校生活が送れる学校風土を作る。 ・教職員の人権感覚を向上させ、言葉遣いに気を付けさせる。 ・「七生中学校いじめ防止基本方針」に基づき、定期的なアンケート実施や、生徒の様子について情報を共有することで、いじめ予防と発生時の迅速な対応を組織的に行う。 ・SNSに使い方について、道徳やセーフティ教室、東京SNSノートを活用し、継続的な指導を行う。	4	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	4	4	生徒のアンケートで、90％以上が「自分は思いやりをもって友人と接している」と回答した	・LGBTに関する人権意識は社会的にも重要視されている。LGBTについての教育については、教員は正しい知識を持って対応することが重要と考える。 ・心のケアは大切な年代である。教員やスクールカウンセラーなどと連携して、学校全体で生徒を見守ってほしい。	・生徒アンケートでは90％以上の回答から、生徒自身が主体的に学校生活の様々な場面で思いやりの気持ちを大切にしていると思われる。学校では定期的なアンケートを活用して、いじめの予防に取り組んできた。また、SNSに関する問題にも定期的な指導を行い家庭と連携して取り組むことができた。今後とも継続して取り組んでいく必要がある。。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80％以上が「自分は思いやりをもって友人と接している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70％以上が「自分は思いやりをもって友人と接している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「自分は思いやりをもって友人と接している」と回答した生徒が70％未満						
いのち	「心の教育」の充実	・日野市第3次学校教育基本方針”をもとにいのち”の教育の充実を図る。 ・道徳教育の充実 ・あいさつ運動の推進	・人権尊重の視点に立った教育活動の充実を図ると共に、自他の生命尊重や差別、偏見をなくす指導を多面的に行う。 ・道徳の授業では、生徒が生命尊重をはじめとする道徳性を養うために、「考え・議論する」授業実践を充実させる。 ・「あいさつとマナーの七生中」の伝統を継承し、日常的なあいさつの励行とあいさつ運動の推進を行う。	4	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	生徒アンケートで、90％以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した	・挨拶の習慣は大切である。継続して取り組んでほしいと思う。 ・14歳からの少年法は意外と大人にも知られていないことがある。少年法についての授業を通して、自分の行動には責任を伴うことを教えてほしい。	・生徒アンケートで、80％以上が、道徳教育の内容を理解し実践していると回答しているが、回答内容から、生徒が主体的に「考え・議論する」道徳教育を充実させることが必要である。 ・「あいさつとマナーの七生中」をスローガンにして、あいさつ運動等の日常的な活動を継続して行っていく。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒アンケートで、80％以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒アンケートで、70％以上が「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	生徒アンケートで「道徳教育の内容を理解し実践している」と回答した生徒が70％未満						
支援	特別支援教育の充実	・支援が必要な生徒に対して、適切な支援を提供できる特別支援教育の充実を図る。 ・不登校傾向の生徒への対応と支援の充実を図る。	・校内委員会を活用し、生徒一人一人にとって効果的な支援の具体策を検討し、実践していく。 ・ステップ教室、リソースルームの充実により、生徒の意欲と自己肯定感を高めしていく。 ・欠席が多い生徒に対しては、生徒の実態に応じて家庭訪問や放課後登校、C4th home&schoolの活用等を通して組織的な対応を行っていく。また、コーディネーターが中心となり、SCやSSW、関係機関等と連携した支援を行っていく。	3	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	保護者のアンケートで、90％以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した	・不登校の生徒が学習者用端末を使って学習できる環境は大切である。学習面において、学習者用端末の有効活用を期待します。 ・学習の手助けが必要な生徒に対しての対応を考えてほしい。	・毎週定期的に支援委員会を開き、ステップ教室、リソースルーム等の機能を十分に活用できている。 ・「家庭と子どもの支援員」の制度を活用し、不登校傾向の生徒への対応を行ってきたところ生徒の登校日数も増えている。今後は、学習者用端末の有効活用について検討していく必要がある。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	保護者のアンケートで、80％以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	保護者のアンケートで、70％以上が「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	保護者のアンケートで、「生徒や保護者からの相談に対し、誠実に対応している」との回答が70％未満						
安全	安全指導の推進	・月に1回の避難訓練や定期的な安全指導等を通して、自他の生命を守り尊重する生徒の育成を図る。	・避難訓練や安全指導、救急救命講習、セーフティ教室等、防災・安全教育の充実を図り、災害発生時に自他の生命を守る生徒を育成する。 ・地域や家庭と連携し、災害発生時の中学生の安全確保と、支援活動における中学生の役割についての理解を深める。 ・SOSの出し方教育の実施	4	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	4	4	保護者のアンケートで、90％以上が「安全や防災の指導が充実している」と回答した	・今の生徒は3.11を知らない年代である。また、七生中学校は川の側であるという環境から、防災に関する教育が大切であると思う。	・月1回の避難訓練では、様々な場面を想定して行っている。また安全指導も定期的に行っている。生徒の避難訓練に取り組む姿勢も良く、生徒アンケートからも90％以上よく取り組んでいるとの回答が得られ、防災に対する高い意識を持っていると考えられる。今後3.11の経験者から学ぶ授業を継続して行っていく。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	保護者のアンケートで、80％以上が「安全や防災の指導が充実している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	保護者のアンケートで、70％以上が「安全や防災の指導が充実している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	保護者のアンケートで、「安全や防災の指導が充実している」と回答した保護者が70％未満						
学び	キャリア教育の充実	・生徒自らの力で生き方を選択してくことができるよう、必要な能力や態度を育成していく。	・人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の育成を図る。 ・地域人材及び事業所を活用したキャリア教育の推進 ・小中高の12年間を見通したキャリアパスポートの活用	3	4	90％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。	3	4	生徒のアンケートで、90％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について理解している」と回答した	・職場体験が中止となって残念だが、代替えとして働く人からの講話を聞く会が行われたことは良かった。 ・それぞれの教育活動を中止にするのではなく、学校で内容を工夫をして取り組んでいることがわかり、良かった。	・生徒アンケートの回答内容から、学活や総合的な学習の時間を通して自らの生き方を考えることが十分にできていないように思われる。地域人材などを活用した教育活動を充実させていく等、キャリアパスポートを有効活用していく必要がある。				
					3	80％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		3	生徒のアンケートで、80％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について理解している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、計画的、組織的に取り組みを行った。		2	生徒のアンケートで、70％以上が「授業全体をとおして、内容や進め方について理解している」と回答した						
					1	計画的、組織的に取り組みを行った教員が70％に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「授業全体をとおして、内容や進め方について理解している」と回答した生徒が70％未満						
地域	保護者・地域との連携	・保護者、地域と連携した教育活動の充実	・PTAに協力を得ながら、特別活動や行事の充実を図る。 ・地域人材を活用し、道徳及び総合的な学習の時間の充実を図る。	3	4	90％以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。	3	4	生徒のアンケートで、90％以上が「地域の方々やPTAの協力を得ながら教育活動が行われていることを理解している」と回答した	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため育成会行事は変更となったが、ラジオ体操・スポーツIN七生は規模を縮小した中で行うことができて良かった。 ・3年間地域との繋がりが疎遠となったが、今後、再構築するために学校と協力して考えていくことが必要である。	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域主催の行事は変更となったが、育成会主催のスポーツIN七生では、ボランティアとして生徒が参加し地域の方々や小学生と交流の場を持つことができた。 ・運動会や合唱祭ではPTAの方を中心に、感染症対策を考慮した受付などの活動をしていただいた。 ・今後も地域やPTAと連携した取り組みを検討していく必要がある。				
					3	80％以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。		3	生徒のアンケートで、80％以上が「地域の方々やPTAの協力を得ながら教育活動が行われていることを理解している」と回答した						
					2	70％以上の教員が、具体的な取り組みに関わった。		2	生徒のアンケートで、70％以上が「地域の方々やPTAの協力を得ながら教育活動が行われていることを理解している」と回答した						
					1	具体的な取り組みに関わった教員が70％に満たなかった。		1	生徒のアンケートで、「地域の方々やPTAの協力を得ながら教育活動が行われていることを理解している」と回答した生徒が70％未満						

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。